

今井が行方のおぼつかなさに、**ふりあふぎ** **たまへる** ← 完了「り」体
補助動・四段・已
⑤作者↓木曾殿
四段・用

(うちかぶと)
内甲を、三浦の石田次郎為久、**追つかかつて、よつびい**
四段・用・促音便 四段・用・イ音便

てひやうふつと**射る**。痛手なれば、真向を馬の頭に**あて**
上二・終 下二・用
補助動・四段・已 完了「り」体

て、**うつぶし** **たまへ**るところに、石田が郎等二人
四段・用 ⑤作者↓木曾殿 「てんげり」↓「てけり」の強調表現
完了「つ」用

落ち合うて、つひに木曾殿の首をば、**取つてんげり**。
四段・用・ウ音便 四段・用・促音便 過去「けり」終

太刀の先に**貫き**、**高くさし上げ**、大音声を**あげ**て、
下二・用 下二・用
四段・用 形・ク活用・用

「この日ごろ日本国に**聞え**させ**たまひ** **つる**木曾殿をば、
尊敬「さす」用 補助動・四段・用 下二・未 補助動・四段・用 完了「たり」体
⑤石田↓木曾殿 完了「つ」体

三浦の石田次郎為久が**討ち** **たてまつり** **たる** **ぞや**」。
四段・用 ④石田↓木曾殿 係助 間助 過去「けり」体

と名のりければ、今井四郎、**いくさ**しけるが、
過去「けり」已 過去「けり」体 係助 間助
四段・用 下二・用 係助

これを**聞き**、「今は、たれを**かば**はんとて**か**いくさをも
四段・用 意思「む」終 係助

すべき。これを**見** **たまへ**、東国の殿ばら、日本一の
当然「べし」体 補助動・四段・命 係助
サ変・終 上二・用 ⑤今井↓東国の殿ばら

剛のものの**自害**する**手本**。」とて、太刀の先を口**に含**み
サ変・体 四段・用

馬よりさかさまに**飛び** **落ち**、**貫**か**つて** **ぞ** **失**せにける。
上二・用 下二・用 過去「けり」体
形動・ナリ活用・用 四段・用・促音便 係助 完了「ぬ」用

さて**こそ** **粟津**のいくさはなかりけれ。
過去「けり」已 係助
形・ク活用・用

今井の行方も気がかりで、振りかえりなせる

甲の内側を、三浦の石田次郎為久が追いついて、
弓を引き絞つて

ひゆうつと射る。深い傷であったので、
甲の前の面を馬の頭に当てて

うつ伏せになられたところに、石田の家来が二人
来合わせて、ついに木曾殿の首を取ってしまった。

太刀の先に(木曾殿の首を)貫き、高くさし上げ
て、大声を上げて、

「この日ごろ日本国で評判でいらっしやる木曾殿
を、三浦の石田次郎為久が討ち申し上げたぞ。」

と名のつたので、今井四郎は戦っていたが、
これを聞いて、「木曾殿が討たれた」今となって
は誰をかばおうとして戦いをしようか。

これを見なされ、東国の方々よ、日本一の
勇猛な武者の自害する手本を。」と言って、

太刀の先を口にくわえ、
馬からさかさまに飛び落ちて、貫かれて死んで
しまった。

こうして粟津の戦いは終わったのであった。